

『主が熱望される平和』 出エジプト記20章13節 2018.7.29 聖日礼拝説教より

『キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし…敵意を廃棄された方…敵意は十字架によって葬り去られました。』 エペソ 2:14～16

「殺してはならない」は誰もが理解しているようで、現実には、複雑で難しい内容を多く含む！

❶いのちが大切にされない時代…この戒めは、殺人は勿論、自殺、戦争、死刑、安楽死(尊厳死)、延命治療、出生前診断などが問われ、この第六戒によって神に裁かれるべきは自分だと気づく。パウロはイエスと出会った時、初めて自分の罪深さを知った(「罪人のかしら(I テモテ 1:15)」だど)！自分は、御心の本意を知らず、守れず、さばかれるべき者だと気づかない限り、神が創られた命が大切にされることはない。

❷いのちを損なう、恐ろしい人の罪(マタイ 5:21～22)…『兄弟に向かって腹を立てる者』の「兄弟」とは「隣人」！「腹を立てる」とは、執念深く、忘れず、仲直りを拒み、恨みを根に持つ感情。ここに3つの殺人が記される。「思いの中で、言葉で、行いで殺す」！イエス様が悲しむのは、神にかたどって創られた大切な「その人」の名誉を傷つけ、冷たく扱われること！『不機嫌は罪(by 三浦綾子)』であり、その不機嫌を治めるには神の助けが必要！「殺すな」の御声を聞き、どんな人とも笑顔で向き合い、仲良く交わる道を祈り求めたい！全てのキリスト者は、自分の罪によってイエス様を殺した殺人者！「イエスを殺したのは私だ！」と自覚した者だけが、そのイエスの命に生かされ、救われる。

❸第三の道…正義の戦争？悪魔的独裁者の暗殺は？御旨は I ヨハネ 3:15～16！殺すのではなく自分が死んで十字架を仰ぐこと。殺さないためにキリスト者ができるのは①神の怒り(裁き)に任せ、②善をもって悪に勝つ(ローマ 12:19～21)！「平和の君」イエスは、「やるかやられるか」の二択から「第3の道」へ導かれ、神の子たちは「平和をつくる者(マタイ 5:9)」と呼ばれる。『つくる』とは「調達する(持ち運ぶ)」こと。私たちの内、交わりの中におられる『平和(キリストご自身)』をその争いの場に持ちこむ！神の熱烈な願いはエペソ 2:12～19！平和の君をかしらとする教会は、どんな人とも共存する道を粘り強く祈り、諦めず努力し、絶えず願う！平和な神の家族でありたいから！

★教会は、歴史の中で多くの失敗と過ちを繰り返してきたが、差別と闘い、かつての敵同士が向き合い、共に十字架の恵みによって救われ感謝する「主にある平和な共同体」を作ってきたのも事実！この教会でその平和な関係を実現したい！